

新ICT利活用サービス創出支援事業「メタデータ情報基盤構築事業」

第2回検討会 要旨

メタデータ情報基盤構築事業事務局

■開会挨拶（筑波大学 知的コミュニティ基盤研究センター 教授 杉本氏）

○要旨

総務省より委託を受けて、メタデータの相互運用に関する共同事業を開始している。

具体的には、メタデータレジストリが、メタデータのインフラにとって今後重要な役割を果たす事になると考え、構築を進めている。本レジストリには、セマンティックウェブの技術を応用する。

今回の海外からの招聘行事は、アメリカを中心に世界で起きているメタデータを巡る動向に関係者に広め、事業の発展を進展させる目的である。

■表敬挨拶（国立国会図書館 館長 長尾真氏）

○要旨

国立国会図書館では、紙資料のデジタル化事業をはじめ、様々な事業を実施している。

事業の中には、ダブリンコア・メタデータを使用しているものもある。今後は、ウェブ上の資料のメタデータ作成の自動化などを検討していきたいと考えている。

今回の議論が、今後の事業発展の参考になるように期待する。

■NDLにおける事業（国立国会図書館 総務部企画課 企画係 白石 啓氏）

○要旨

国立国会図書館における取り組みを報告する。

1. Web NDL SH (<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlsh>)
2. Web NDL Authorities
3. DC-NDL
4. NDL Search (<http://iss.ndl.go.jp/>)

■米国における取り組み（Daniel Chudnov 氏）

○要旨

MADS/RDF を発表した。追加のリソース（名称典拠など）を Authorities & Vocabularies (<http://id.loc.gov/authorities>) に投入できるように準備中。Prints & Photographs Online Catalog (<http://www.loc.gov/pictures/>) という LC 内のデジタルコレクションにもメタデータの付与を開始した。そのほか、Linkypedia

(<http://linkypedia.inkdroid.org/>) (文化遺産をつなぐサイト) や Google scholar のサービスについて等紹介。

■ W3C Library Linked Data Incubator Group activities (Thomas Baker 氏)

○要旨

W3C Library Linked Data Incubator Group は、セマンティックウェブや Linked Data に関する技術の図書館への応用について世界的な標準化の必要性を検討する組織。IFLA の FRBR、ISBD 等のグループにアサインしている。RDF 自体の改訂の検討も始まっており、それにも参加する予定である。来年 2 月から、Provenance (=history of description) のメタデータへの記録について議論を開始する。現在は、ウェブの発展に対して、図書館が重要な役割を果たすチャンスであると考えている。

■ Metadata Registry (永森氏)

○要旨

総務省事業で開発予定であるメタデータレジストリについて説明。メタデータレジストリによって、コミュニティを越えてメタデータを共有することの必要性を説明される。

■ NII の事業についての説明 (武田氏)

○要旨

CiNii、KAKEN の RDF に関する説明や、LODAC (<http://lod.ac/>) プロジェクトについて説明。

LODAC プロジェクトでは、メタデータデザインはできるだけシンプルにしている。元データに沿って厳密にデザインすると、非常に複雑なデータとなり使いにくくなってしまう。メタデータは、カーリル (<http://calil.jp/>) と同じスクレイピングの手法で取ってきている。こういった泥臭い方法でもここまでのサービスができる、というのをあえて見せたい。

いずれは、Linked Open Data クラウドに入りたい。

■ 自由討議

Linked Data の質、RDF、日本語の読み等につき自由討議が行われた。

以上